



実用新案登録願 (第B号) 後記号なし

昭和50年 8 月22 日

特許庁長官 斎藤英雄殿

1. 考案の名称

フタトリフケソウチ
蓋取付装置

2. 考案者

住 所 岐 阜 市 清 1 1 3 7

岐阜プラスチック工業株式会社内

氏 名 岡 末 吉

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 500

住 所 岐 阜 市 清 1 1 3 7

名 称 (A05) 岐阜プラスチック工業株式会社

代表取締役 大 松 幸 栄

4. 代理人

郵便番号 530

住 所 大阪市北区堂島上2丁目39番地

(毎日産業ビル内)

電話大阪(06)344-4343 (代表)

氏 名 (6176) 弁理士 石 田 長 七

5. 添付書類の目録

(1)	明 細 書	1	通
(2)	図 面	1	通
(3)	委 任 状	1	通
(4)	願書副本	1	通
(5)	出願審査請求書	1	通



50-116550

明 細 書

1. 考案の名称

蓋取付装置

2. 実用新案登録請求の範囲

容器体の開口部附近に軸受孔部を設け、軸受孔部を断面円状の孔部と、孔部に連通し孔部の直径よりも開口巾の短い軸挿入取出し開口部とにて構成し、蓋体の端部に設けた軸を孔部に回動自在に嵌め込んで蓋体にて容器体の開口部を開閉自在とし、軸の断面形状を略楕円形状とし、略楕円形状の軸の長径の長さを孔部の直径よりも短かくすると共に長径の長さを軸挿入取出し開口部の開口巾よりも長くし、略楕円形状の軸の短径の長さを軸挿入取出し開口部の開口巾よりも短くして成る蓋取付装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、容器体(1)の開口部附近に軸受孔部(2)を設け、軸受孔部(2)を断面円状の孔部(3)と、孔部(3)に連通し孔部(3)の直径よりも開口巾の短い軸

挿入取出し開口部(4)とにて構成し、蓋体(5)の端部に設けた軸(6)を孔部(3)に回動自在に嵌め込んで蓋体(5)にて容器体(1)の開口部を開閉自在とし、軸(6)の断面形状を略楕円形状とし、略楕円形状の軸(6)の長径の長さを孔部(3)の直径よりも短かくすると共に長径の長さを軸挿入取出し開口部(4)の開口巾よりも長くし、略楕円形状の軸(6)の短径の長さを軸挿入取出し開口部(4)の開口巾よりも短くして成る蓋取付装置に係るものであつて、その目的とするところは容器体に開閉自在に取付けた蓋を簡単に取りはずすことができる蓋取付装置を提供するにある。

本考案を実施例により詳述する。図中(1)は容器体であつて、容器体(1)の外壁には把つ手(7)が設けてある。把つ手(7)は外周部方向に開口せる断面コ字状をしており、容器体(1)の開口部附近に位置する把つ手(7)の上部の両側片(7a)には軸受孔部(2)が設けてある。軸受孔部(2)は図に示す如く側片(7a)の両側に開口する断面円状の孔部(3)と、側片(7a)の両側及び側片(7a)の上部に開口し且つ孔部(3)に

連通する軸挿入取出し開口部(4)とによつて構成してある。ここで軸挿入取出し開口部(4)は図に示す如くややななめ外上方に向けて傾斜しており、更にこの軸挿入取出し開口部(4)の開口巾は孔部(3)の直径よりも短いものである。図中(5)は蓋体であつて、端部に操作用突片(8)が突設しており、操作用突片(8)の下面に下向に向けて2個の足片(9)が垂設しており、各足片(9)の外側面より外方に向けて軸(6)が突設してある。軸(6)は略楕円形状をしていて、略楕円形状の軸(6)の長径の長さは孔部(3)の直径よりも短くなつていと共にこの長径の長さは軸挿入取出し開口部(4)の開口巾よりも長くなつており、また略楕円形状の軸(6)の短径の長さは軸挿入取出し開口部(4)の開口巾よりも短くなつてゐる。しかして軸挿入取出し開口部(4)の開口方向に対して略楕円形状の軸(6)の長径が平行となるようにした状態で、軸挿入取出し開口部(4)に略楕円形状の軸(6)を挿入して軸(6)を孔部(3)内に回動自在に嵌め込むものである。一方蓋体(5)を容器体(1)から取りはずしに當つては、略楕円形状の軸(6)の長径を軸

挿入取出し開口部(4)の開口方向と一致させた状態で軸(6)を軸受孔部(2)より取りはずすものである。ここで蓋体(5)が容器体(1)の開口部(2)を閉蓋した状態においては第2図の如く略楕円形状の軸(6)の長径と軸挿入取出し開口部(4)の開口方向とが一致しないように設定してある。また第3図に示す如く完全に蓋体(5)を開蓋した場合には操作用突片(8)の先端が断面コ字状の把つ手の中央片(7b)の上部に当接して閉蓋状態が保持されるものであり、この状態においても略楕円形状の軸(6)の長径と軸挿入取出し開口部(4)の開口方向とが一致しないようになつてゐる。すなわち略楕円形状の軸(6)の長径と軸挿入取出し開口部(4)の開口方向は蓋体(5)を閉蓋した時及び完全に開蓋したときは一致しないようになつていて閉蓋時及び完全に開蓋したときあやまつて蓋体(5)がはずれないようになつてゐる。なお蓋体(5)の開閉操作に当つては操作用突片(8)を指で押えて開閉操作をおこなうものであり、この場合操作用突片(8)の上面にすべり止め用凸部(9)を設けておくといつそう操作が容易となるものである。

本考案は、叙述の如く容器体の軸受孔部を断面円状の孔部と、孔部に連通し孔部の直径よりも開口巾の短い軸挿入取出し開口部とにて構成し、蓋体の端部に設けた軸の断面形状を略楕円形状とし、略楕円形状の軸の短径の長さを軸挿入取出し開口部の開口巾よりも短くしてあるので、軸の長径と軸挿入取出し開口部の開口方向とを一致させることにより簡単に軸を軸受孔部に着脱できるものであつて、容器体と蓋体とを別々に掃除したり、あるいは蓋体の交換が容易にできるものであり、しかも略楕円形状の軸の長径の長さを孔部の直径よりも短かくすると共に長径の長さを軸挿入取出し開口部の開口巾よりも長くしてあるので、軸を孔部に嵌め込んだ場合軸を孔部内で回動させることができるのはもちろん、軸の長径と軸挿入取出し開口方向とを一致させて軸を取り出す時以外は軸が孔部より脱離しないという利点がある。

4 図面の簡単な説明

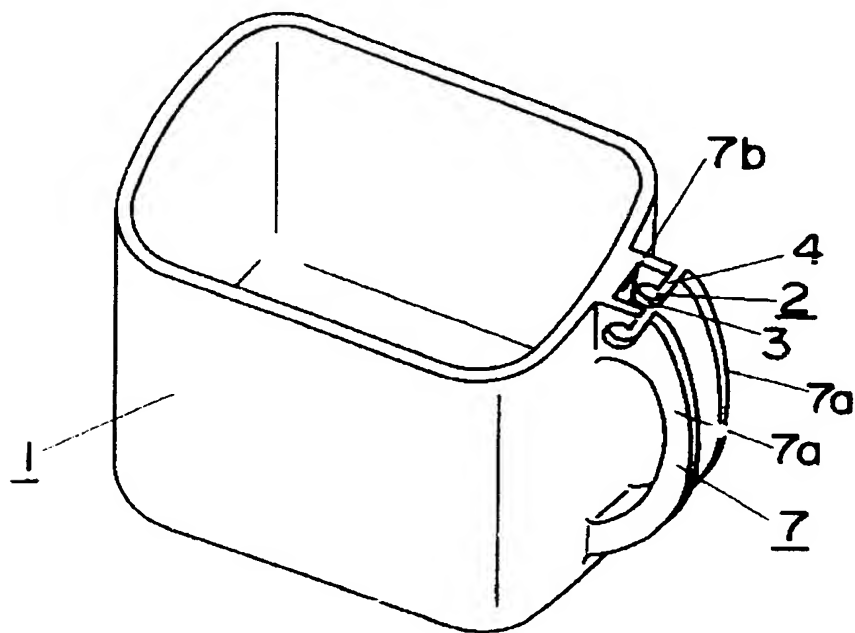
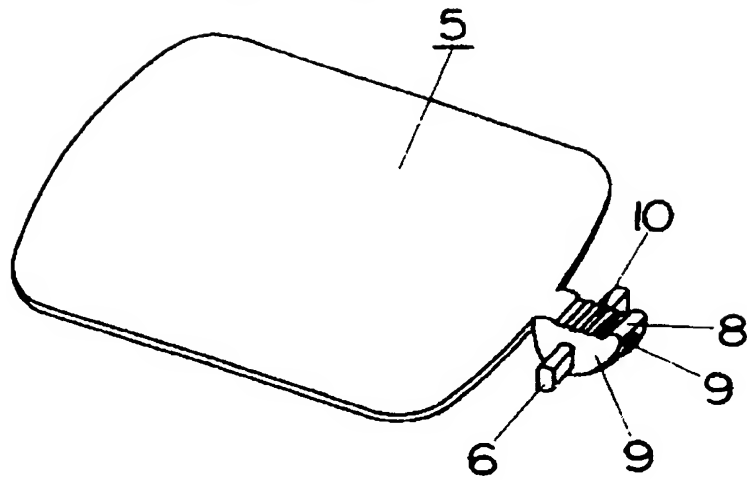
第1図は本考案の分解斜面図、第2図は向上

の蓋体の閉蓋状態を示す一部切欠側面図、第3図は向上の蓋体の全開状態を示す一部切欠側面図、第4図は軸の取出し状態を示す要部側面図であつて、(1)は容器体、(2)は軸受孔、(3)は孔部、(4)は軸挿入取出し開口部、(5)は蓋体、(6)は軸である。

代理人 弁理士 石 田 長 七

Subscribed and sworn to before me this 1st day of March 1904

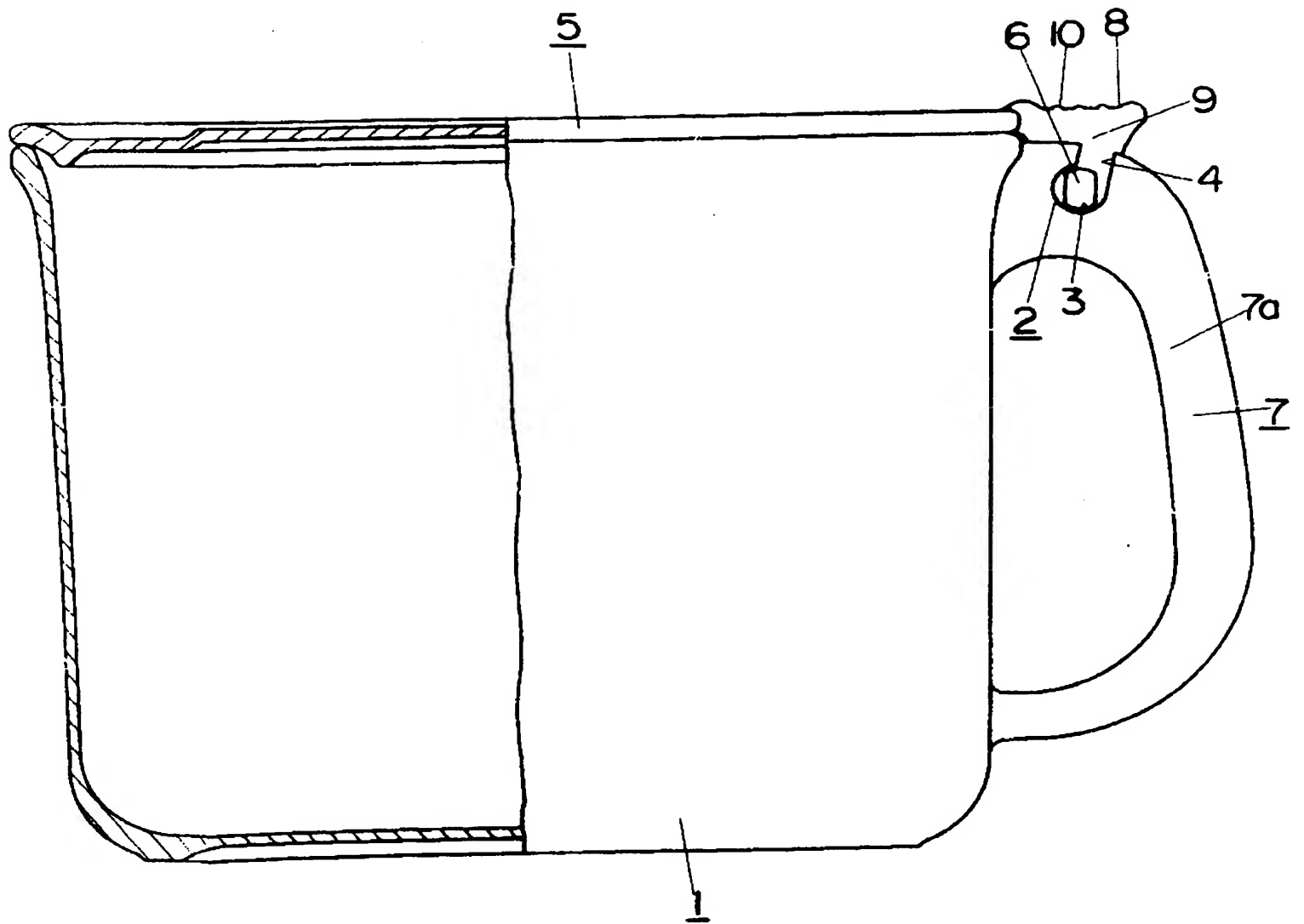
第 1 圖



第 1 圖

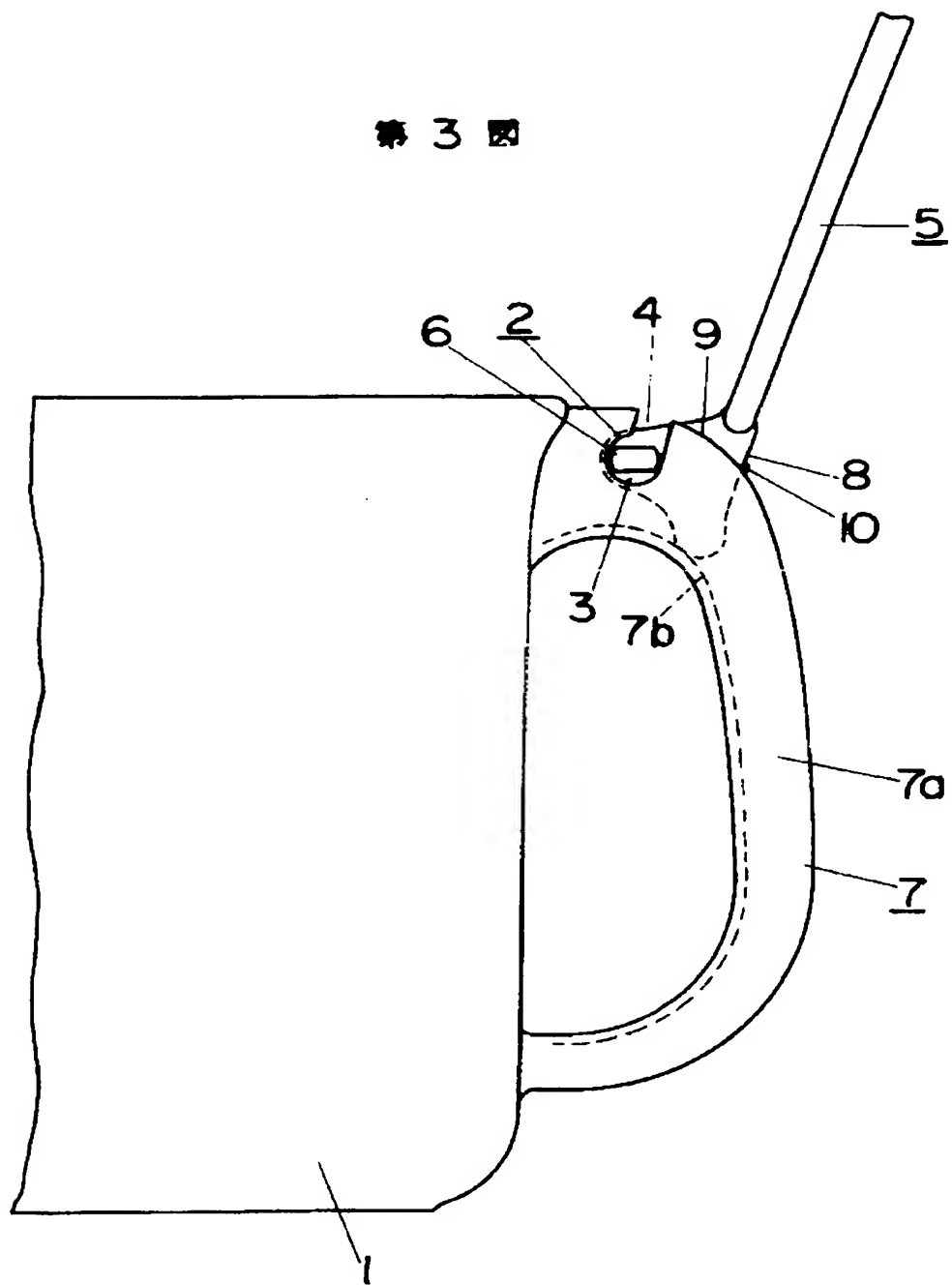
30302 1/4

図 2



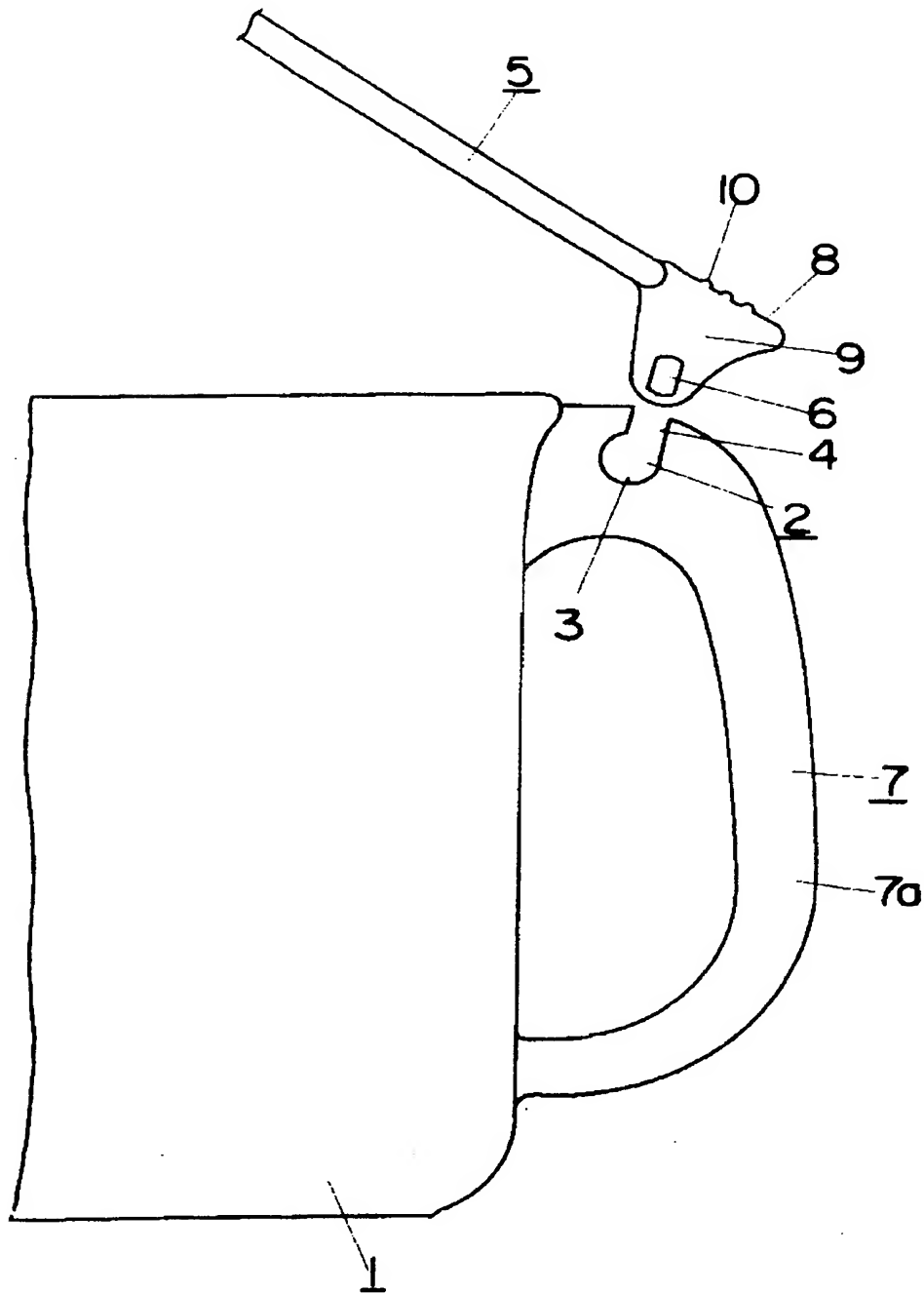
2025 RELEASE UNDER E.O. 14176

第 3 圖



3/4

第 4 図



30302 4/4